

「市民力」の時代

八王子市都市政策研究会議副座長 西田 和夫

八王子市は、2006(平成18)年に市制90周年を迎えた。いくつかの記念事業が開催されたが、中でも特筆すべきは、「第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール in 八王子」であろう。このコンクールは、八王子で国際的な音楽コンクールを開きたいという一人の市民の夢が仲間を動かし、有志で地道に活動を続け、さまざまな紆余曲折を経ながらも、ついには多くの市民や行政、企業を動かして実現したものである。世界15か国から31名の将来を嘱望された若きチェリストたちが八王子に集い、11月下旬から12月初旬にかけて11日間にわたり感性豊かな演奏を繰り広げて、満場の観客を魅了した。期間中は、八王子駅や中心市街地など市内各所でミニコンサートや歓迎イベントも行われ、感動を共有した多くの市民が、音楽の街としての八王子の可能性を確信したのである。今回の大成功を受け、3年後の次回開催に向けて、本市は「音楽の街づくり」を進めていくこととなった。

チェロ・コンクールは産声をあげたばかりだが、八王子にはもうひとつ、立派に育った自慢のイベントがある。「全関東八王子夢街道駅伝競走大会」である。1951(昭和26)年に第1回大会を開催して以来57回を数える伝統ある大会であり、好天に恵まれた今年(平成19年)は、正月の箱根駅伝に出場した大学強豪チームを含む315チーム1,277人のランナーが、沿道の市民の声援を受けて市の中心軸である甲州街道(国道20号)を力走した。今や「夢街道駅伝」は冬の風物詩として定着し、八王子のスポーツ振興と地域経済活性化に大いに貢献している。

この二つの市を挙げての大イベントに共通しているのは、実に多くの市民によって支えられているということだ。どちらも、それぞれ本市を代表する企業がメイン・スポンサーとなり、また、多くの個人、団体、事業者が準備段階から本番まで、運営・資金両面において様々な形で関わり、華々しい表舞台を支えるために裏方として汗を流している。まさに「市民力」なくしては成り立たないイベントなのである。

都市政策研究会議では、今回、「八王子における地域自治組織を考える」を研究テーマとした。将来、八王子において都市内分権が進んだとき、一方で、八王子市民が地域を越えて一体感を味わい対外的にもアピールすることができる、全市を挙げてのイベントの必要性・重要性は、さらに高まるはずである。地域の自治を創造し、八王子の都市としての魅力を引き出すことができるのは、「市民力」においてほかにはない。八王子のまちづくりの様々な場面で「市民力」が存分に発揮されるよう、「自治体職員力」もまた高めていくことが求められている。

(にしだ かずお・八王子市総合政策部長)